

# 【第4章】

## 施 策

# 第4章 施策

## 1 施策の体系

北海道が目指す「自立」と「共生」の基本理念を実現するため、「可能性を引き出す教育の推進」「質を高める環境の確立」「地域と歩む教育の実現」の3つを施策の柱に、22の施策項目を設定し、10年後を見据えた施策の方向性に向かって個別・具体的取組を推進することとしています。

## 2 体系図

### 3つの施策の柱

### 22の施策項目

#### 施策の柱 1

子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進

- ① SDGs・ESDの推進<P32~>
- ② 幼児教育の充実<P34~>
- ③ 新しい時代に必要となる資質・能力の育成(小・中学校)<P36~>
- ④ 新しい時代に必要となる資質・能力の育成(高校)<P38~>
- ⑤ 特別支援教育の推進<P40~>
- ⑥ STEAM教育の推進<P42~>
- ⑦ キャリア教育の充実<P44~>
- ⑧ 体力・運動能力の向上<P46~>
- ⑨ 健康教育・食育の充実<P48~>
- ⑩ 道徳教育の充実<P50~>
- ⑪ ふるさと教育の充実<P52~>
- ⑫ グローバル人材の育成<P54~>

#### 施策の柱 2

学びの機会を保障し質を高める環境の確立

- ⑬ ICTの活用推進<P56~>
- ⑭ いじめ防止の取組の充実<P58~>
- ⑮ 不登校児童生徒への支援の充実<P60~>
- ⑯ 教員の養成・採用・研修の一体的な改革の推進<P62~>
- ⑰ 働き方改革の推進<P64~>
- ⑱ 学びのセーフティネットの構築<P66~>

#### 施策の柱 3

地域と歩む持続可能な教育の実現

- ⑲ 地域と学校の連携・協働の推進<P68~>
- ⑳ 生涯学習・社会教育の振興<P70~>
- ㉑ 安全・安心な教育環境の構築<P72~>
- ㉒ 芸術文化活動の推進<P74~>

# 3 ページ構成

## 施策の柱

### 施策項目

## 施策の方向性

施策の柱に向かい 10 年後を見据えて推進する施策の方向性です。

### 主な取組

施策の方向性に対する主な取組です。

施策は見開き 2 ページ

## 関連する SDGs の目標

施策に関連する持続可能な開発目標です。

施策の柱 1「子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進」

### 施策項目 3 新しい時代に必要な資質・能力の育成（小・中学校）

#### 施策の方向性「10 年後を見据えて」

- 全国学力・学習状況調査の結果を系統的に分析し、学力向上に向けた教育活動の検証と改善に全ての教職員が一体となって組織的に取り組みます。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進め、新しい時代に必要な資質・能力を育成します。
- ICT 等を活用し、学習の段階に応じて、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ります。
- 規則正しい生活を送ることにより学習意欲の向上を図るため、子どもの望ましい生活習慣や学習習慣の定着に向けた家庭・地域と連携した取組を促進します。

#### 主な取組

- 教育課程の実施状況を評価してその改善を図る検証改善（PDCA）サイクルの充実。
- 各学校段階や学校段階間において育成を目指す資質・能力を明確にし、小学校から高校までの 12 年間を見通した検証改善サイクルの確立を推進。
- 各学校管理職のリーダーシップの下で展開される教育活動の検証と改善の充実。
- 調査結果の分析に基づく研修会や指導主事等の指導助言等により、各学校が学力向上に向けた教育活動の検証と改善を組織的に実践。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。
- 指導方法や指導体制の工夫等の指導助言による全教員の指導力の向上。
- 教員向けの研修会や各種資料提供を行うなど、全ての教科等における言語活動の充実。
- ICT 環境を適切に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実。
- 個々の興味・関心・意欲等を踏まえて、きめ細かく指導・支援することなど、した学習活動の充実。
- 探究的な学習や体験活動を通じて子ども同士や多様な他者と協働しながら行う。
- 家庭・地域と連携した望ましい生活習慣、学習習慣の定着。
- 資料の配付や研修会の開催による子どもの生活習慣に対する保護者等の意識の向上。
- 団体、企業等と連携した地域ぐるみの取組の促進。
- 音楽を学び、感性を磨き、表現力を育める読書活動の推進。
- 学校における読書習慣確立に向けた全校一斉読書等の取組の強化。
- 市町村立図書館や公民館等の施設とボランティア等の連携による子どもの読書に親しむ機会の推進。

続く

### 関連する主な SDGs の目標

- コミュニケーション能力や主体性を育む体験活動の充実。
- 道立青少年体験活動支援施設等を核とした学校・地域・公立青少年教育施設等との連携強化。

#### Topics

##### 【学校段階間の連携・接続の推進】

- 児童生徒の発達の段階に応じた系統的な教育活動の充実を図るため、学校段階間の接続を意図した教育課程の編成・実施や指導方法の工夫・改善を図るとともに、各学校間の連携を促進します。
- 幼稚園、認定こども園及び保育所の意見を踏まえたスタートカリキュラムを編成する小学校の取組を推進。
- 同一中学校区で教育目標を共有し、共通した取組を位置付けるなど、義務教育 9 年間を通じた教育課程の編成・実施、評価、改善（PDCA サイクル）の充実。
- 高校における、必要に応じた学び直しの視点を踏まえた教育課程の編成など中高校の連携の充実。

#### Information Communication Technology

- クラウドを活用した情報共有ネットワークの構築による学校間の一層の交流。
- 各学校で実施するテストの CBT 化による 1 人 1 端末末を活用した学力向上に向けた取組の促進。

#### 【推進指標】

指標	現状値(R4)	目標値(R9)
○ どの程度、PDCA サイクルを確立しているかの質問に対し、「よくしている」と回答した学校の割合	小 46.2%、中 49.0%	94.0%
○ 話し合う活動を通じ、自分の考えを深めることなどができていると回答した小学 6 年生、中学 3 年生の割合	小 80.3%、中 78.0%	100%
○ 授業以外に、1 日当たり 1 時間以上勉強すると回答した小学 6 年生、中学 3 年生の割合	小 56.6%、中 63.6%	74.0%
○ 家や図書館で、音読、1 日 10 分以上読書をする回答した小学 6 年生、中学 3 年生の割合	小 57.1%、中 48.4%	73.0%
○ 学校図書館図書標準を達成している学校の割合	調整中	調整中
○ 近隣の小（中）学校と教育課程に関する共通の取組をよく行なったと回答した学校の割合	小 21.7%、中 30.2%	61.0%
○ 中学校と高校との連携を深める視点を踏まえた教育課程を編成している学校の割合	37.8%	70.0%

#### 担当課 HP

- 子どもの望ましい生活習慣や学習習慣
  - 子どもの望ましい生活習慣は、毎日から時間を経たずことや毎日継続を促していること、家庭で決めたルールに基づいてゲーム等の時間を定めるなどの取組を通して定着を図ること。
  - 学習習慣は、家庭学習の時間を定めて勉強を促すこと、勉強の段階に応じて学校の授業以外に 1 人 1 人学習時間を設けることなど、定着を図ること。
- 各学校段階や学校段階間
  - 各学校段階は、小学校、中学校、高校のそれぞれ、研修会を実施。学校教職員は、小学校と中学校の 9 年間、中学校と高校の 6 年間を実施。
  - 各学校段階は、小学校、中学校、高校のそれぞれ、研修会を実施。学校教職員は、小学校と中学校の 9 年間、中学校と高校の 6 年間を実施。
- CBT：Computer-Based Testing
  - 試験における下地（問題の配付、問題の入力、解答の採点、採点・集計）を、全てコンピュータで行うこと。

## ICT

ICT を活用し、より効果的に進める主な取組を記載しています。

## 推進指標

施策の方向性の達成状況を把握するための指標です。

## 担当課 HP

施策を推進する担当課のホームページにつながります。

## 用語解説

本文中の「\*」を付した用語を解説しています。

## Topics

複数の施策項目にまたがって記載のある取組の内容を紹介しています。

※施策項目 3 では「学校段階間の連携・接続の推進」を記載

※施策項目 20 では「家庭教育支援の推進」「読書活動の推進」を記載